

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------------|------------|--------------|
| 事業所番号 | 1175700898 | | |
| 法人名 | 株式会社ユニマツ リタイアメント・コミュニティ | | |
| 事業所名 | 新座グループホームそよ風 | | |
| 所在地 | 埼玉県新座市堀ノ内1-3-32 | | |
| 自己評価作成日 | 平成 28 年 3 月 13 日 | 評価結果市町村受理日 | 平成28年 6 月 3日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku_ip/11/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigvsoCd=1175100898-00&PrefCd=11&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 有限会社プログレ総合研究所 | | |
| 所在地 | 埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2階 | | |
| 訪問調査日 | 平成 28年 3 月 15日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々の入居者の過去の生活歴の把握に努め、出来る限りその生活が継続できるよう支援している。「笑顔」になれる時間を多く作るよう、コミュニケーションを多く取る働きかけを意識して取り組んでいる。いつまでも自立し、人に頼ることを少しでも減らし、自信を持って生活できる環境づくりに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の目標の一つとして、「一日百笑」を挙げている。これは、職員の仕事の都合に合わせてではなく、利用者の時間に合わせ、利用者とは話をする時間を増やしていこうという心掛けである。その為に、どのようにケアを提供していく必要があるのか、管理者は職員に日々問いかけている。食事の際、ただ提供するのではなく、利用者が「どう食べたい」か選択してもらうことを大事にしている。例えば、魚を食べる時も、焼き魚にするか煮魚が良いのか等、利用者に調理方法を決めて貰い調理している。利用者からは、「ぶりの照り焼きが食べたい」との声があり、食卓に上り好評を得た。外出する際も、職員からの提案、例えば「散歩に行きましょう」と声を掛けるのではなく、行きたいと思う動機づけ、自己決定に繋がるような声掛け・利用者に関わろうとする意識を大切にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 事業所理念、各ユニット理念を掲げ、意識して実践している。 | ユニット毎に今必要だと思うことを挙げ、それぞれの理念を作成している。「見守ることを大切に」陰で支える意識で、ケアに当たっている。時間が経つことで逸れることがないように会議で理念に立ち返る。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 主に、コンビニや物産所への買物を通じて接点を持っている。また、地元のスーパーから宅配してもらっている。保育園とも定期的に交流を図っている。 | 毎年保育園との交流を持つようにし、ひな祭りに呼ばれ参加している。散歩のついでに寄ってもらえることもある。散歩の際には挨拶をすることを心がけ、近所には事業所の認識がされている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 主に、管理者が介護相談に応じている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 家族や行政、地域の代表の方からの意見や思いを取り入れ、その内容を職員と会議で共有し、サービスに繋げている。 | 平日・土・日と曜日を变えて、多くの方が参加出来る様に開催している。現状報告や市からアドバイスと、家族の声を聴く機会としている。「掃除して欲しい」「外出を増やしてほしい」等の声に対応している。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | センターの状況を定期的に報告し、適宜助言等頂いている。 | 書類提出時等、足を運び顔の分かる関係を築けるようにしている。空き情報の提供や市からの相談、社協からの紹介で入居に繋がった例がある。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束を行わないケアの実践に向け、研修を定期的に開催し、職員の意識を高めている。玄関に関して、車の往来が多いため、施錠を実施している。 | 全体会議の中で管理者より、職員に「身体拘束とは何か」を周知している。学ぶ姿勢を大切に、日々の申し送りで説明をし、必要があれば事例を用い振り返っている。家族からの要望が出る時は、家族の気持ちを汲み取りながら話し合っている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 会議において研修し、意識向上に努めている。また、職員のストレスコントロールにも注意し、アンケートや日々の会等で気づきにつなげている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 研修機会は一部の職員に留まっている。また、個々で学ぶ意欲が不足しているため、十分に支援しきれていない。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約締結時に、丁寧な説明を心掛けている。質問疑問等がある際は、いずれにおいても、電話及び来訪時に説明し、納得して頂いている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 入居者様からは日々の聞き取りを通して。ご家族様は行事等へ家族来訪の際、運営推進会議を通して意見を吸い上げ、運営に活かせるよう会議を中心に職員に落とし込みをしている。 | 面会時や運営推進会議等、来訪機会がある度に意見や要望を汲み取れるよう、コミュニケーションを図っている。何気ない家族の言葉をヒントに、言われるのを待つのではなく、自ら気付ける様に心掛けている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 全体会議、各ユニット会議へ参加し意見の聞き取りを行っている。また、日々の中でも職員個々から意見を聞き、実践できるものから取り入れるようにしている。 | 一人ひとり話をする機会を設けている。立ち話等の何気ない時間や表情や周りからの情報で声を掛けている。収支を見ながら職員にも運営面を意識してもらい、一緒に考え相談をしている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 面談を中心に職員の評価を行っている。また、適宜アドバイスをし、モチベーションにつながる働きかけも行っている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 個々の能力に応じ、社内研修に参加する機会を確保している。また、外部研修に参加できるよう、開催記事等を掲載し、自由意思に基づき参加してもらっている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 管理者を中心に、同業他社の方と交流している。今後の職員間交流の機会を作る為、基盤作りを行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 契約前の段階で、その方の情報の聞き取りに努めている。また、本人と関わりを持つ中で、思いを聞きだし安心できる関係づくりに力を入れている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 契約前に、家族の面思いの聞き取りを行っている。また入居後は、入居者様の生活の様子を報告し、不安の解消に繋げている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 生活歴等の聞き取りを通して、出来る限り今の生活と違いが出過ぎないように配慮している。また、段階に応じ、他のサービスの利用もできるよう必要な情報をお伝えしている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 自立支援を意識し、できることは自分で、できないことはさりげなく支援するよう取り組んでいる。個々の主体性を尊重できる体制作りにも、意識して取り組んでいる。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 入居者様、ご家族、職員とがともに関わりを持つ時間作りを、行事への参加を通して行っている。ともに支える意識を持ってもらうために、状況報告は細かく行っている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 家族はもちろん、親族や友人の来訪を通してなじみの関係の維持に努めている。なじみの場所への支援は十分に行えていない。 | 昔からの趣味である書道の友人が会いに来たり、一緒に部屋で過ごす方がいる。来訪されると、お昼を一緒に過ごしたり半日滞在することもある。利用者にとって大切な関係を継続出来るよう努めている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 小集団でのレクリエーションや行事、外食等を通じて個々の関わりを繋げている。また、職員との会話を通して、複数の会話に発展させられるよう、意識して取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約終了の際に、困りごと等へのご相談はいつでも連絡下さいと伝えている。また、時間のある時は、雑談でも構いませんのでお越し下さいとも伝えている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 個々人の意思を聞き取りし、職員間で共有している。意思表示の難しい方は、以前までに話していたことや、表情等から探り出すよう努めている。 | 表情を見て声かけを日々行っている。個々の発言や行動、希望を記録し、利用者個々の思いを職員で共有している。困難な場合は、記録を基に家族に聞き、判断をしている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前にご家族やご本人から聞き取りし、記録に残している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 個々が、何をして過ごしているか、把握に努めている。申し送りでの情報共有を丁寧にを行うようにしている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 毎月会議を開催し、個々の状況把握に努め、ケアプランに反映するよう心掛けている。ご家族にも説明し、思いや意見の聞き取りを意識して行っている。 | ユニット会議で現状の見直しを行い、より本人に合った計画を立てている。プランへの意識を高める為、アセスメントは職員と一緒にしている。発言が変わったり、行動が変わった時に随時見直しをしている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 介護計画に基づいたケア記録の記入を心掛けているが、職員により力量は様々である。申し送りノートで情報共有は行えている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 現状の職員体制においては、既存のサービスの範疇を超えて支援することは難しい。ただ、ご家族様の要望には、出来る限りは答えようと努力している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 春は保育園でひな祭り、児童センターでの花見。夏は近隣スーパーで涼みながら買い物。秋は平林寺で紅葉見学等、地域資源の有効活用に努めている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人の希望に応じ、かかりつけ医を継続利用して頂いている。 | 希望する医療機関で受診が出来る様になっている。かかりつけ医の場合は家族での対応を説明した上で情報共有しながら行っている。夜間や緊急はオンコール体制を取っており、常に連絡できる環境である。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 往診先の看護師と、連携を密にとるようにしている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院中のムンテラに参加し、意見交換を行っている。また、面会の機会を設け、入院中もその方の情報把握に努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | センターで対応できること、他の施設で対応できること等、細かな面でも説明を重ね、本人や家族にとって一番良い形での終末が迎えられるよう対応している。その為に、医師との連携も大切にしている。 | 指針があり、契約時に説明をしている。早めの段階で事業所で対応できる事、できない事の説明をしている。家族の協力が必要な事を家族、医師、職員等で話し合い、方針を統一している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | マニュアルは備えてあるが、訓練といったものは実践できていない。座学での知識の習得のみであるため、課題である。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 避難訓練は実施しているが、一部の職員の参加にとどまっている。また、地域の方々と、避難訓練について協力体制は築けていない。 | 昼間、夜間想定で、避難訓練を実施している。消防署員が立ち会うこともある。災害時職員が動ける様、避難経路の確認や3階から車椅子を下す練習などを行っている。水や食料など3日分の備蓄品がある。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 個々のできることに、苦手な事の把握をし、辱めてしまうことのないよう、配慮して対応している。環境整備が行き届いていないため、十分に改善すべき点である。 | 管理者はトイレ介助時は、自分から近くに寄り、耳元で話すよう職員に伝えている。居室入室時も、ドアをノックして確認後入室するよう心掛けている。声の大きさや声を掛けるタイミングに気をつけている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | コミュニケーションを意識し、気持ちをくみ取れるよう、また話しかけやすいよう、出来る範囲で席につくようにしている。また、選択の機会を設け、自分で判断できることを大切にしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 日々の流れを優先してしまいがちなため、意識して関わる時間を設けるようにしている。できることや、好きな事、好きな過ごし方の把握には努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 訪問理美容を取り入れ、髪型は個々に決めてもらっている。衣服は、何を着たいか聞きながら支援するように対応している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事作りや盛り付け等、一部の方の参加にとどまっている。食事の好みは、普段の会話から聞き取りをし、また当日食べたい物をリクエストしてもらい、調理に活かしている。 | 利用者にリクエストを聞き、梅干しが食べたいやパスタの味付けがこれが良い等の声を聞き調理をしている。手作りおやつではパンケーキを焼いたりどら焼きに餡を詰めると一緒に作っている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養士の献立に基づいて調理している。また、個々に応じて食事量は調整している。水分摂取を促さないと進まない方には、特に意識して進めている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 個々に出来る方は食後に行ってもらっている。ただ、声掛けはするが行えていないこともある。介助は必要な方へは実践できている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄はトイレで、という意識のもと、個々の排泄パターンの把握に努め、失敗を減らすための取り組みは行えている。 | 排泄表で、誘導のタイミングを把握している。トイレでの排泄を基本とし、朝食後にトイレに座り排便を習慣づけている。リハビリパンツから布パンツとパッド等になる方、入居前より改善されている方もいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食事や水分、体操等を工夫することにより、自力で排泄できるよう意識して取り組んでいる。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴時間は午前午後どちらでも入れるよう対応している。また毎日湯を張り、曜日を決めたりしないよう、3日に1度は入ってもらえるよう働きかけている。 | 週2～3回、時間は決めずに入浴をしている。長く入浴を希望される方には、ゆっくり入れるように時間を取って入浴してもらっている。好みのシャンプーを個々に持って来ている人もいる。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 居室内の湿度や温度、環境整備に努め、安眠できるよう対応している。落ち着いて眠りにつけるよう、匂いも取り入れている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の変更時は、職員各々が把握に努めている。また、申し送りノートや申し送り時に、薬の情報共有も意識して行っている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 個々ができることを分担し、必要とされることが実感できるよう働きかけている。適宜外出等も取り入れ、センター内だけの生活にならないよう気を付けている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | ゴミ捨てや散歩、近隣への買物であれば、比較的行えている。個々に外出する際は、事前に計画を立て、職員配置を整えてからでないと、取り組むことは難しい。 | 読書が好きな方がおり、本を読みたいとの声に、職員と一緒に図書館に本借りに出掛けている。公園やお寺に春は菜の花、秋は紅葉狩りに出かける等、四季を感じる事が出来る。散歩は定期的に行い外に出る機会を作っている。 | 利用者一人ひとりの行きたい場所など、希望を把握し、外出できる機会を作れるよう期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 金銭を持つことが出来る方には、その支援を行っている。お金があることで混乱の大きい方には、適切な金額での支援を行っている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 特に制限は設けていないため、電話は自由にして頂いている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 清潔であることを意識している。また、季節感も多く取り入れ、目で楽しんで頂き、季節感も感じて頂いている。ただ、全体的に配慮すべきことができていないことも多くあるため、環境整備は課題である。 | 壁には利用者と一緒に作成した季節の作品を飾っている。これらは、今の季節を感じてもらおう為、そしてコミュニケーションの一環として毎月変えている。掃除は職員が中心に行うが、利用者が手伝ってくれる時もある。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | テーブル配置や座席配置、ソファを廊下に置くなどして、共用スペースにしながらも、個々に過ごすことができるよう意識している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時に、使い慣れた物を持ち込んで頂けるよう説明している。入居後は、個々から聞き取りのもと、好みの物品を適宜購入し、その方の居室作りを大切にしている。 | 利用者にとって馴染みの物を持ち込んで貰えるようにしている。例えば、写真や歴史の本、書道の掛け軸それぞれが大切にしているものが部屋に飾られている。居室でテレビを見て過ごしている方もいる。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレにはわかりやすく大きく表示している。また、各居室は個々のネームプレートを作成しわかりやすくしている。全体的に、自立支援が行き届いていないため、今後も意識して取り組んでいく必要がある。 | | |